

あさお ふれんず

Asao friends

8
2021

コロナ禍も市民の地域デビューを積極的にお手伝い 区民講師公開講座を実施しました

区民講師公開講座とは？

麻生区には素晴らしい技術や経験を持った人たちが多くいるに違いない。その方々に講師になっていただき、その特技やノウハウを披露してもらおうというのが講座の目的です。この講座をきっかけに新しくサークルが誕生することも。区民講師公開講座で講師デビューをしてみませんか？

※次回の募集は秋頃に行われる予定です。



新型コロナウイルスによる市民活動が制限される中、「やまゆり」では昨年度実施できなかった恒例の区民講師公開講座を4月から実施し7月に無事終了した。今回の講座は昨年度から延期した11講座12名の講師が実施した。

開講にあたっては、受講生、講師、スタッフの安心安全を第一に十分な換気や密にならないよう定員は通常の半数以下にして実施したため、応募者が多く定員をオーバーし受講をお断りする講座も生じた。

本講座は11回を重ね、講師希望者も多く約140人がデビューした。麻生区はたくさんの方々の方

今までに、約140名の
講師が誕生している



ボランティアスタッフ等の有志で やまゆり花壇の会を発足しました

「やまゆり」への来館者や道路を通行している人の目を楽しませ、心を和ませるようと、会館入り口横の花壇を整備して季節に合った花々を植えて手入れしています。写真は6月下旬で、会館敷地内数か所にやまゆりの花も咲きました。



種多様な活動が盛んな区であると誇らしい。何かの特技を披露したいと考えたとき個人ではちょっとハードルが高い、場所の確保、チラシ作り、広報、講演補助といったところすべてを、経験を積んだ「やまゆり」の担当スタッフがしっかりサポートする。

また、シニアを対象とした「目指せ！アクティブシニア講座」は今年も実施されセミナーが終わってから受講生たちの新しい会が生まれ、地域デビューを果たしている。

いずれも、来年度の募集は秋にはじまる予定なので、ホームページやチラシなどを参照してほしい。

みんなあつまれ！ たのしい手づくり音楽会

区民サークル紹介

「音楽ユニットPentas（ペンタス）」は、演奏家・宮本由季さんと酒井英利子さん、この活動を支える三人の仲間たち、計五人の団体だ。

子どもから高齢者、障がいのある人もない人も、既成の枠を越えて生の音楽に触れて貰いたいとの熱い思いを胸に2017年に結成された。

二人の演奏を聴くだけでなく、参加者も歌ったり踊ったり手をたいたり、自らが音楽の一部となつて楽しもうという試みだ。子ども向けにと思った企画に大人が喜々として、大人向けの難しい演奏に子どもが熱心に聞き入ったりと、音楽を楽しむ心に垣根はないとしばしば感じるといふ。

去年はコロナ禍で、従来型の公演

が難しくなり大変苦労したそうだが、この経験から今年はオンライン演奏会も企画中和のこと。コロナ禍でも、みんなに喜んで貰える演奏会を考える毎日はとても充実しているという。

最後に二人が夢を語ってくれた。「Pentas発足のきっかけとなつた、誰もが自由に気兼ねなく参加できる音楽空間を創ることは私たちの夢で、使命感を感じています。今、Pentasの活動に携わることで私たちの夢は叶いつつあります」。目を見合わせてにっこりする二人に優しさと強さを感じた。

取材・文 区民記者 名越耀子



代表：宮本さん(右)と酒井さん(左)



左の酒井さんが持っているのはカズーという楽器。コミカルな音色に子どもも大喜び。



おんがく
音楽ユニット
Pentas



代表：宮本由季(みやもとゆき)
設立：2017年
ホームページ：<https://www.pentas-music.net/>

連絡先
QRコード

透明感が魅力のパステル画はいかが！

区民サークル紹介



講評を受けた作品を手に(前列右から2人目が北村先生)



北村先生の作品(横浜、日本丸メモリアルパーク)

会」の日であった。構図の決め方から陰影や遠近を感じさせる技法まで細かく指摘した。「絵はタイトルを意識して描くもの」との先生の話が印象に残った。

新人でも1年通

王禅寺ヨネッティーで開かれたカルチャースクールをきっかけに活動を開始した。会員は60歳代から80歳代。

パステル画の多くは、パステルと呼ばれる顔料を粉末にシクレヨンやチョークのような棒状に固めたもので描く。水や油もいらず、乾くのを待たずに重ね塗りができるので気軽に楽しめる。特徴であるパステルカラーは、シャープで、鮮明な色で、明るくてソフトな色である。

描くテーマは事前に決めるが、本人の好きな絵を描けばいい。8時間あれば作品は仕上がるとのこと。ただし2、3ヶ月ごとに先生の講評があり、それに沿って修正し完成度を高めていく。取材した日は講評・合評

えば描けるようになる。上達の秘訣は、熱意のほか合評会で人の作品もよく見て、指摘されたことを吸収すること。年1回麻生市民館アートギャラリーで発表会を行うのも励みになる。今年は9月3日から8日(月曜休館)。3密を避けマスク着用で活動している、是非見学を。

取材・文 区民記者 中島久幸

おうぜんじ 王禅寺パステル画会

先 生：北村清士(きたむらきよし)
代 表：若林通一(わかばやしみちかず)
連絡先：090-8102-6510(若林)
設 立：1991年4月
会 員：8名(男性3名、女性5名)60～80歳代
入会金：なし
会 費：1500円/回
活動日：毎月第2、第4月曜 9時30分～12時
場 所：麻生市民館(通常)、
王禅寺ヨネッティー(コロナ禍)

楽しく踊ればダイエットにも

区民サークル紹介

どじょうすくい踊りで広く知られる「安来節」。お馴染みの踊りや唄を学び、楽しみながら、伝統芸能としての保存や普及にもつなげていこうという集まりが「川崎安来節同好会」だ。

安来節は踊り(どじょうすくい、銭太鼓)、唄、三味線、鼓とさまざまな要素からなる。「同好会」は、60歳過ぎに習い始めて踊りの師範、唄と三味線の准師範となった三浦清市さんが、麻生区に居を構えてからつくった集まり。最初は唄と三味線から始め、三浦さんが講師となった公開講座をきっかけに踊りの会も誕生した。現在は踊り、唄・三味線、その上級者としての活動を月2回ずつ行っている。踊りの会で取り組んでいるのは、どじょうすくいの男踊り。CDの唄に合

わせて踊り、指導にあたる三浦さんがわかりやすくアドバイスする。「見かけよりずっと難しい」と言いながらも、楽しそうに踊る会員たち。三浦さんによれば、所作を覚えれば半年から一年で踊れるようになるという。「足腰が自然に鍛えられ、ダイエットにもなる」のもその特長。あさおサークル祭では、踊りと唄・三味線が合同で練習の成果を披露する。

「やればやるほど愛着がわき、奥が深いのが安来節です。教える方ももっと工夫していきたいですね」と三浦さん。84歳になるが、背筋はまっすぐ伸び、身のこなしも軽い。普及のためにオンライン指導も計画中だ。

取材・文 区民記者 佐藤次郎



ことしのあさおサークル祭(7月10日)で熱演する踊りの会のメンバー



かわさきやすぎぶしどうこうかい
川崎安来節同好会

代 表: 三浦清市

連絡先: sei37j8@ksh.biglobe.ne.jp
または090-6318-8459

設 立: 2009年

会 費: 安来節保存会の資格審査を受ける場合は月2200円。受けない場合は同2700円(踊り、唄・三味線共通)。上級者は同3500円

活動日: 踊りは第1、第3水曜。唄・三味線は第2、第4水曜。上級者は第2、第4木曜。

場 所: 踊りは主として麻生市民交流館やまゆり。唄・三味線は麻生区役所柿生分庁舎地区会館。上級者は麻生市民館岡上分館。

ここは誰もが集えるところ

区民サークル紹介



麻生市民館内の七夕。
担当者は空模様様にそわそわやきもき

年齢も障がいも関係なく、地域の誰もが知り合い、集える場所づくりを目的に、各種の活動を行っている「かたひらほっとカフェ」。代表の小林由紀(こばやし ゆき)さんのほか、メンバー全員が同じバステル画教室の在籍又は卒業生なので、息もぴったり。

取材日(6月26日)は多くの制約のなか、昨年12月以来、3回目の開催。バステルで七夕の短冊と海の情景を描いた。縦横約7mm、長さ約4cmの小さなバステルの色を、綿で短冊や用紙に塗り重ねる。やがて白紙は、バステル特有の色合いに満ちた短冊と、広大な海の情景に変わってゆく。バステル画の魅力の一つは、この塗り重ねの楽しみにもあるようだ。

活動は麻生市民館(以下「市民館」)の市民自主企画事業。小林さんは「七夕は市民館等で、来館者の方にも『お願い』を書き飾っていただいた。おかげで多くの方とかわれ、つながれた

と実感しています。片平会館関係者の方々にも感謝しています」「今回は子ども達も含め30名以上の参加でした。気軽に参加してほしい」と語る。次は10月、12月の予定。詳細はかたひらほっとカフェや市民館のHP、「麻生市民館だより」を参照。

取材・文 区民記者 仲原照男



終了後、麻生市民館担当者と一緒にのぼりを持って記念写真



かたひら
ほっとカフェ

代 表: 小林由紀(こばやし ゆき)

連絡先: katahira.hot.cafe@gmail.com

設 立: 2020年1月

会 員: 7名(女性7名)

参加費: 実費(材料費ほか)

開催日: 適宜(10月、12月の予定)

場 所: 片平会館
(川崎市麻生区片平5-11-10)ほか



団塊世代の「自分語り」次世代に引き継ぐバトン

定年退職をした男性たち、2025年には団塊の世代が後期高齢者となり、リタイア後の社会的孤立、メンタルヘルス、孤独死などの問題の深刻化が危惧されている。定年退職後にいかに新しい社会的役割やつながりを創成するか、田園調布学園大学人間福祉学部和（かのう）秀俊准教授の2年がかりの研究がスタートした。



建物の外観から想像できない開放的な研究棟

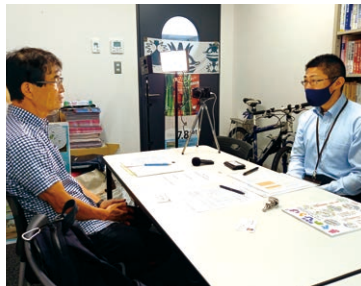
の生き方や思いなど」のエッセンスをまとめていく。記事を書くにあたり団塊世代の端くれである記者はこの研究の1対象者として「自分語り」のインタビューを受けてきた。地域にあるとはいえ大学構内に入ることには初めてだ。研究室は吹き抜け構造の明るくモダンな建物の4階にある。入口にはマウンテンバイク、和准教授と今回の研究のキーとなる映像クリエイターの太石洋一氏が待ち受ける。

准教授の絶妙なリードのもと、自分の人生を話す。語るうちに、自分の意識が変わっていく気がした。こうして撮られていく、3層の「自分語り」動画は2022年に共同編集する。そのワークショップに参加するだけでも啓発されるだろう。

そして完成する動画。共有や視聴により、様々な人たちの生き方を伝え、次世代の人たちに定年退職後のビジョンや機会を与えるに違いない。映像を使ったコラボレーションによる研究は、動画やオンラインサロンなどインターネットの進化を活用し、新しいつながりを共創する。

でんえんちょうふがくえんだいがく
田園調布学園大学
かのうけんきゅうしつ
和研究室

代表：田園調布学園大学
人間福祉学部社会福祉学科
准教授 和（かのう）秀俊
連絡先：044-966-9211（代表）
住所：麻生区東百合丘3-4-1



学生時代から愛用する自転車のある研究室

取材・文
区民記者 景山 茂

和准教授は、専門である地域福祉は実学であって地域の福祉をデザインするものであるという考えから、「農園フェス」「かわさき色輪っかつなぎ」などの企画・運営、長沢地区の祭りに参加するなどゼミ学生ともども新しい福祉をデザインするためにフィールド活動で成果を出す。この研究がどうデザインされ、形になるか、参画を続けていきたい。

ふれんずの輪を広げよう

区民記者が、あなたの活動取材します！

活動を紹介
して欲しい

取材申込み方法

応募条件

麻生区を拠点に活動している。または、麻生区在住・在学・在勤など麻生区に関わる方が活動に参加している。

申込方法

- ①団体名 ②代表者名 ③連絡先（電話・FAX・メール）
 - ④活動内容（イベントの場合は開催日時・料金・内容）
- をFAXまたはメールでご連絡ください。

イベントを
取材して！

あさお区民記者

「区民による 区民のための情報発信」を目的に活動。原則、第2木曜日に『麻生市民交流館やまゆり』で編集会議を行っています。過去の記事や記事や取材後記はホームページをご覧ください。



麻生市民交流館やまゆり

〒215-0021 川崎市麻生区上麻生1-11-5

FAX 044-951-6467 MAIL info@asao-ku.net

お申込みいただいた内容については、編集会議で可否を検討したうえ、改めてご連絡させていただきます。

※選挙、政党・政治団体など政治活動に関わるもの、宗教団体による布教推進を目的とするもの、営利目的の団体・個人、プライバシーの侵害や業務妨害のおそれのあるもの、差別を助長するものは掲載できません。